

名古屋市美術館 press release



まるで美術の教科書

珠玉の東京富士美術館コレクション

西洋絵画の400年

Masterpieces from Tokyo Fuji Art Museum 400 Years of Western Paintings

2025 4/12(土) - 6/8(日)

名古屋市美術館
Nagoya City Art Museum

企画趣旨

珠玉の東京富士美術館コレクション

西洋絵画の400年

1983年、八王子に開館した東京富士美術館は、絵画、彫刻、写真、陶芸、武器など、約3万点のコレクションを誇る、日本でも有数の美術館です。中でも西洋絵画の充実ぶりは群を抜き、ルネサンスから現代まで400年を超える西洋絵画の歴史を一望できます。さらにルネサンスからロココ、新古典主義など、日本の美術館では珍しいオールド・マスターの優品がそろっているのも、このコレクションの大きな特徴です。

今回の展覧会ではこのコレクションから厳選された約80点の絵画によって、西洋絵画400年の歴史を振り返ります。さら星のごとき巨匠たちの傑作の数々に目を奪われるだけでなく、理念や思想を伝える手段としての絵画から、色彩と形態の喜びをうたい上げる絵画へと、時代とともに変貌するその本質を学ぶことができます。「まるで美術の教科書を見ているようだ」。会場をめぐるあなたは、きっとそうつぶやくことでしょう。



アルフレッド・シスレー
《レディース・コーヴ、ラングランド湾、ウェールズ》
1897年 油彩・カンヴァス

※本プレスリリース掲載作品は全て東京富士美術館蔵 ©東京富士美術館イメージアーカイブ
／ DNPartcom

展覧会のみどころ

1. 東京富士美術館の約80点の厳選された珠玉の作品を展示

東京富士美術館の西洋絵画コレクションは、16世紀のイタリア・ルネサンスから20世紀の近現代美術までを網羅した国内有数の質を誇っています。今回の展覧会では、その中からティントレット、アントニー・ヴァン・ダイクといった日本でその作品を見る機会があまりない巨匠から、モネ、ルノワールといった人気の作家まで、約80点の厳選された珠玉の作品を展示します。

2. 「まるで美術の教科書」のように西洋美術の流れが分かる

本展では、各時代を代表する画家たちの名作によって「まるで美術の教科書」のように西洋絵画400年の歴史を振り返ることができます。その紹介方法も、時代順や様式順ではなく「歴史画」「肖像画」「風俗画」「風景画」「静物画」のようなジャンルごとにグループ分けされており、美術の入門に最適な展覧会となっています。また、ジャンルの区別が失われていく19世紀以降については、「何を描くか」「どう描くか」といった点に注目して作品を紹介します。

3. “ほぼ”全点写真撮影可能！

本展では、一部の作品を除きほぼ全ての作品が撮影可能になっています。会場で楽しんでいただくだけでなく、作品の写真を後で見返すことや、SNSなどで沢山の人と共有することもできる展覧会になっています。

展覧会構成

I 絵画の「ジャンル」と「ランク付け」

西洋絵画を鑑賞するにあたって、「何が描かれているか」という視点は非常に重要です。ルネサンスから19世紀前半ごろまでの西洋絵画の世界では、絵画のジャンルによってその格や価値が決まり、それは描いた画家自身の社会的ステータスや制作姿勢にも大きな影響を与えるものでした。特に歴史画は高尚なジャンルとされ、ヨーロッパ各地に作られた美術アカデミー（教育機関）によってその価値観はますます強固なものとなっていきました。大画面作品も当時は歴史画のみに許されていました。風景画、風俗画、静物画などは歴史画の一構成要素でしたが、17世紀以降にオランダなどで市民社会が発展すると、こうしたジャンルの絵画が市民から絶大な人気を得るようになり、それぞれが1つのジャンルとして独立していきました。

I-1. 歴史画 神話、物語、歴史を描く～絵画の最高位～

歴史画には、歴史上の出来事を題材にした絵画だけでなく、神話や古典文学・伝説を題材にしたものや、徳や学問といった抽象的な概念を表す寓意画も含まれます。最上位のランク付けがされ、歴史画を描く画家には幅広い知識や能力が求められました。



ジャック＝ルイ・ダヴィッドの工房
《サン＝ベルナール峠を越えるボナパルト》
1805年 油彩・カンヴァス

第2次イタリア遠征の「アルプス越え」伝説を描く。英雄ナポレオンのイメージ形成に重要な役割を果たした。



ノエル＝ニコラ・コワペル《ヴィーナスの誕生》
1732年頃 油彩・カンヴァス

ギリシア・ローマ神話に登場する女神たちを優美なロココ様式で描き出した神話画

I-2.肖像画 王侯貴族から市民階級へ～あるべき姿／あるがままの姿～

特定の誰かの似姿を表す肖像画は、他のジャンルより遥かに古い歴史を持ち、最古の例は古代エジプトまで遡ります。16～17世紀には支配者・権力者にとって肖像画を描かせることがステータスの1つとなり、権威の可視化や富や名声を誇示する役割を担いました。



ティントレット(ヤコポ・ロブスティ)
《蒐集家の肖像》1560-65年 油彩・カンヴァス

ルネサンス期のヴェネツィア派を代表する画家。背景に描き込まれた建物や彫刻は、肖像画の人物とヴァチカンとの関係を示す。



アントニー・ヴァン・ダイク《ベッドフォード伯爵夫人
アン・カーの肖像》1639年 油彩・カンヴァス

イギリス国王チャールズ1世の主席宮廷画家として知られる画家の、晩年の洗練された技術が窺える作品。

I-3.風俗画 市井の生活へのまなざし

日常生活を描いた風俗画は、現実の風景を「記録」したものとは限らず、道徳、教訓、美德、風刺などが込められたものも少なくありません。共和制の下で市民社会が成立した17世紀のオランダでは、市民感覚に沿った風俗画が、風景画、静物画などと共に好まれました。



ピエール・ベルゲーニユ《田園の奏楽》
17世紀後半-18世紀初頭 油彩／カンヴァス

楽器や、歌詞が書かれていると思しき紙片を持った人々が音楽を奏でる中、戯れる人々が描かれる。



ジョシュア・レノルズ《少女と犬》
1780 年頃 油彩・カンヴァス

「ファンシー・ピクチャー」と呼ばれる、子供を愛くるしいポーズや可愛い衣装で描いた、イギリスを中心に流行した形式。



ジュール・ジェーム・ルー・ジュロン
《鏡の前の装い》1877 年 油彩・カンヴァス

床に置かれた大きな東洋風の壺などから、当時流行していたジャポニズムの影響を感じさせる作品。

I -4.風景画 「背景」から純粋な風景へ～自然と都市～

自然風景描写は、当初は歴史画の「背景」として登場しましたが、次第に風景そのものが主題となった絵画が描かれるようになりました。17 世紀以降のオランダでは多種多様な風景画が描かれました。18 世紀のヴェネツィアで活躍したカナレットは厳密な遠近法による都市景観画を描き、後に滞在したイギリスの風景画に大きな影響を与えました。



サロモン・ファン・ロイスダール
《宿の前での休息》1645 年
油彩・カンヴァス

オランダを代表する風景画家の作品。明解な空間表現と精緻な風景描写が特徴。



カナレット(ジョヴァンニ・アントニオ・カナル)
《ヴェネツィア、サン・マルコ広場》
1732-33 年頃 油彩・カンヴァス

18 世紀ヴェネツィアの画家。都市の風景を正確に描写する「ヴェドゥータ(都市景観画)」を多数制作した。



クロード・ロラン(クロード・ジュレ)
《小川のある森の風景》1630 年
油彩・カンヴァス

ターナーなど後世の風景画家に大きな影響を与えた画家。神話に取材しながらも、風景描写が画面の大部分を占める。

I-5. 静物画 動かぬ生命、死せる自然

静物画は、生活に密着した自然物、人工物などを描くジャンルです。歴史画や肖像画に添えられた「物」にはしばしば象徴的な意味が託されました。16 世紀末から 17 世紀にかけては「物」自体が主役として描かれるようになっていきました。



コルネリス・ファン・スペンドンク
《花と果物のある静物》1804 年 油彩・カンヴァス

フランスで活躍したオランダの静物画家。対角線上に配された花と果物と、神話に取材したレリーフが施された石台が緻密に描き込まれている。

Ⅱ 激動の近現代－「決まり事」の無い世界

1789年のフランス革命と19世紀前半のイギリスの産業革命を経ての、近代的な市民社会、資本主義社会の成立による社会構造の変化は、絵画にも大きな影響を与えました。前時代の美術アカデミーや大公募展であるサロンによって形成された価値観は大きく揺らぎ、画家個人の感受性や個性を重んじるロマン主義が台頭するようになりました。

絶対的な価値観や規範が揺らいだ結果、絵画は多様性を獲得していくことになり、「ジャンル」「ランク」と言った前時代的な枠組みも機能しなくなっていました。また、サロンの影響力も低下し、作品発表の場も多様化していくことになりました。さらに、社会構造の変化によって誕生した中産階級（ブルジョワジー）の嗜好が反映されることで、風俗画、風景画、静物画といった前時代では歴史画の下に置かれた作品の需要が高まり、歴史画の優位も崩れていきました。

Ⅱ-1.「物語」の変質

18世紀末から19世紀に台頭したロマン主義は、それまでのジャンルやランクではなく個人の感受性や個性を重んじるもので、画題も、同時代の事件や戦争などを取り上げたものから異国の風俗まで広がりを見せるようになりました。

そうしたロマン主義に反発するかたちで起こったレアリズム（写実主義）の画家たちは、身近な現実や社会を理想化せずにありのままに描くようになりました。1830～40年代には、パリ南東のバルビゾン村に多くの画家たちが集まり、森や都市近郊の田園、農村など現実的な風景を描きました（バルビゾン派）。19世紀にチューブ入りの絵具が開発、普及され屋外での制作が可能になると、画家たちは実景を前に光の明暗を捉えられるようになり、そうした制作姿勢は後の印象派の画家たちにも引き継がれていきました。

20世紀に入ると、こうした現実を捉える絵画だけでなく、人間の夢や無意識から非合理的なイメージを表すシュルレアリスムが登場しました。ジャンルやランクといった旧来の価値観はこうした多様な絵画表現によって塗り替えられていくことになりました。

Ⅱ-1-1. 物語／現実



ウジェーヌ・ドラクロワ《手綱を持つチェルケス人》
1858年頃 油彩・カンヴァス

ドラクロワによる東方的主題の作品。1832年以前に北アフリカ諸国を随伴訪問した際に得たイメージを後に再構成したと推測される。



ジャン＝フランソワ・ミレー《鷺鳥番の少女》
1866-67年 油彩・カンヴァス

牧歌的な世界を表したミレーの晩年の作品。1867年の同名のサロン出品作と同時期に描いたものと考えられている。



ピエール＝オーギュスト・ルノワール
《赤い服の女》1892年頃 油彩・カンヴァス

印象派の明るい色彩と生命力に満ちた、ルノワール典型的な作風を示す作品。描かれた女性は当時の流行ファッションを身に着けている。

Ⅱ-1-2. 幻想の世界へ



ルネ・マグリット
《再開》1965年 油彩・カンヴァス

花瓶の花束が消え去り、そこに自然豊かな風景を描く。2つのイメージを組み合わせ、現実ではありえないイメージを作り上げている。

Ⅱ-2.造形の革新

ルネサンス以降、絵画は三次元的空間を二次元平面に落とし込むことが重要視されました。物理的な筆痕は絵具という「物質」を感じさせるために排除され、写真のような滑らかな絵肌が好まれました。しかし、近代になると色彩と、それと結びつくかたちで筆触が重要視されるようになりました。例えば印象派の画家たちは、絵具を混ぜずに原色で画布に小さな筆触を並べる「筆触分割」という技法で画面の明るさを保ちつつ、光と色彩の微妙な変化を捉えました。

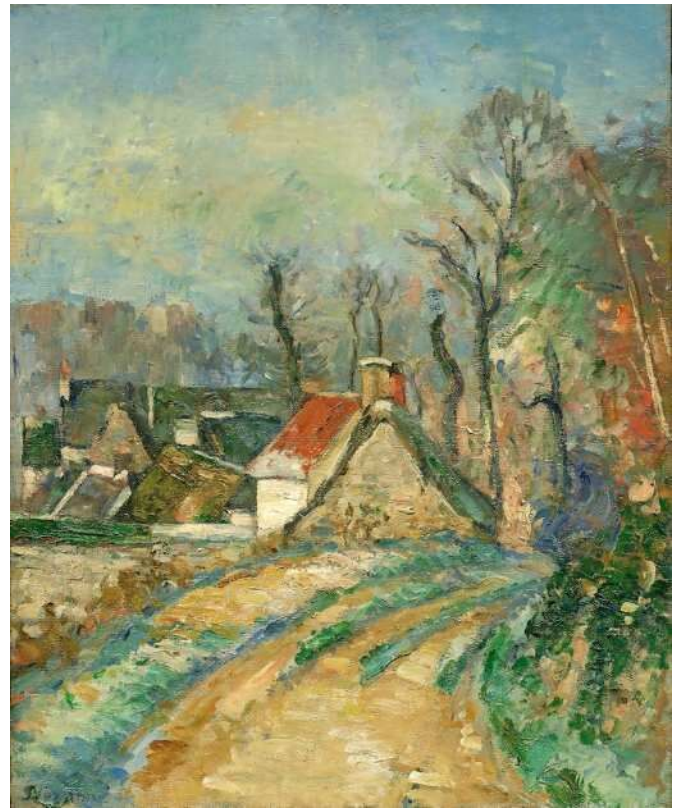
続く新印象派の画家たちはこの技法を突き詰め、点描を用いた緻密な画面を作り上げました。また、印象派の描く形態の不明瞭さを嫌うセザンヌのように構築的な空間表現を志向する画家も登場しました。こうした造形に対する意識の変化は、20世紀のキュビズムの登場へと繋がっていきました。

Ⅱ-2-1. 光と色彩の饗宴



アンリ・マルタン《画家の家の庭》1902年 油彩・カンヴァス

全景を点描で描くことで、光と色彩によって風景を捉えた作品。マルタンが南フランスに移住した頃にアトリエの庭を描いた作品。



ポール・セザンヌ《オーヴェールの曲がり道》1873年頃 油彩・カンヴァス

印象派展に出品していた時期の作品、屋根や壁面の幾何学的表現に、後のセザンヌの作風の片鱗が見られる。

Ⅱ-2-2. フォルムと空間



クロード・モネ《睡蓮》 1908 年 油彩・カンヴァス

遠近法によって奥行きを生み出す従来の空間表現にかわり、水面の一部を切り取り、クローズアップする表現が用いられている。モネが68歳の時に描いた15点の睡蓮の連作のうちの1点。

エコール・ド・パリの画家の作品も多数展示！

名古屋市美術館のコレクションでお馴染みの、モディリアーニ、シャガール、ローランサン、ユトリロ、キスリングといったエコール・ド・パリの作品も東京富士美術館は多数所持しています。普段常設展で展示されている作家の違う時期、画題の作品を見ることができるのも本展の大きな特徴です。



アメデオ・モディリアーニ《ポール・アレクサンドル博士》
1909 年 油彩・カンヴァス



モーリス・ユトリロ《モンマルトル、ノルヴァン通り》
1916 年頃 油彩・カンヴァス



マリー・ローランサン《二人の女》20 世紀前半
油彩・カンヴァス



キスリング《花》1929 年 油彩・カンヴァス

開催要項

- (1) 展覧会名 珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の 400 年
Masterpieces from Tokyo Fuji Art Museum
400 Years of Western Paintings
- (2) 会期 2025 年 4 月 12 日[土]－6 月 8 日[日][50 日]
- (3) 休館日 月曜日(5 月 5 日[月・祝]は開館)、5 月 7 日[水]
- (4) 会場 名古屋市美術館 企画展示室 1・2
- (5) 主催 名古屋市教育委員会・名古屋市美術館、中日新聞社、東海テレビ放送
- (6) 後援 愛知県教育委員会、名古屋市立小中学校 PTA 協議会、JR 東海
- (7) 協力 NTY ニット美術センター、名古屋市交通局
- (8) 観覧料 一般 1,600(1,400)円、高大生 800(600)円、中学生以下無料
()内は通常前売・20 名以上の団体料金
- (9) 公式サイト <https://art-museum.city.nagoya.jp/exhibitions/post/masterpiecesfromtfam/>
- (10) 関連催事
 - ① 講演会「日本画家からみた西洋絵画の 400 年」
日時:4 月 12 日(土)14:00－(約 60 分)
講師:清水由朗(東京富士美術館館長、愛知県立芸術大学日本画専攻教授、日本美術院同人)
 - ② 講演会「教科書としての西洋美術」
日時:5 月 17 日(土)14:00－(約 90 分)
講師:深谷克典(名古屋市美術館参与)
 - ③ 学芸員による解説会
日時:4 月 26 日(土)、14:00－／5 月 23 日(金)、18:00－(いずれも約 60 分)
講師:近藤将人(名古屋市美術館学芸員)
 - ① ② ③いずれも
場所:名古屋市美術館内 講堂
定員:180 名(当日先着順、定員になり次第締切)
参加費:無料(ただし、聴講には展覧会観覧券[観覧済みの半券も可]が必要です)
 - ④ ボランティアによるギャラリートーク
 - ⑤ ファミリー向け特別鑑賞会
日時:4 月 28 日(月) 10:30－/ 13:30－
④の日時、および④、⑤の参加・申込方法などの詳細については、後日展覧会公式サイトで告知。

「珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年」広報用画像の提供について

特別展「珠玉の東京富士美術館コレクション展」をご紹介いただく際の広報用画像を提供いたします。下記注意事項をご確認の上、専用フォームにより申請してください。

広報用画像提供依頼専用フォームはこちら
→<https://logoform.jp/form/mX9C/909788>



●展覧会をご紹介いただく場合

・本展をご紹介いただく場合、記事・番組内容について情報確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で校正を下記問い合わせ先までメールにてお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

・掲載・放送後は、掲載紙・誌、または同録データもしくは DVD 等を 1 部お送りくださいますようお願いいたします。WEB サイトの場合は、掲載時に URL をお知らせください。

●画像掲載について

・画像の使用は本展を紹介する場合に限らせていただきます。展覧会終了後の放送・掲載はお断りします。また本展会期中であっても、再放送や転載をされる場合はご連絡ください。

・ご使用の際は、指定のキャプション表記をお願いいたします。画材の表記についてはスペースがない場合は省略可とします。

・画像はすべて全図で使用してください。トリミング、縦横比の変更、文字や他のイメージを重ねることはできません。

・以上の点にご留意いただけない場合、所有者などとの間にトラブルが生じることがあります。その場合、主催者側では一切責任を負いかねますのでご注意ください。

・画像は原則データでの送付とさせていただきます。必ずメールアドレスをご記載ください。

●読者プレゼントの提供について

・本展をご紹介いただく場合、ご希望があれば本展招待券を貴媒体読者プレゼント用に提供します(5 組 10 名様まで)。専用フォームにてお申し込みください。

●展覧会の取材・撮影について

・本展の取材・撮影をご希望の場合は事前にご連絡ください。ご連絡がない場合、お断りすることがあります。

【広報に関するお問い合わせ】

名古屋市美術館（広報担当：魚住）

〒460-0008 名古屋市中区栄 2-17-25 TEL：052-212-0001 FAX：052-212-0005

メール：ncam_gakugei@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

特別展「珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年」広報用画像一覧

①		②		③		④	
⑤		⑥		⑦		⑧	
⑨		⑩		⑪		⑫	
⑬		⑭		⑮		⑯	
⑰		⑱		⑲		⑳	
㉑		㉒		㉓		㉔	

特別展「珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年」広報用画像

作品キャプション一覧

- ・画像掲載時には必ず作品キャプションを併記ください。
- ・キャプションには「東京富士美術館蔵 ©東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom」を追記ください。(※㉔を除く)

例：クロード・モネ《睡蓮》 1908 年 油彩・カンヴァス
©東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

①	クロード・モネ《睡蓮》 1908 年 油彩・カンヴァス
②	ジャック＝ルイ・ダヴィッドの工房《サン＝ベルナール峠を越えるボナパルト》 1805 年 油彩・カンヴァス
③	ティントレット(ヤコポ・ロブスティ)《蒐集家の肖像》1560-65 年 油彩・カンヴァス
④	アントニー・ヴァン・ダイク《ベッドフォード伯爵夫人 アン・カーの肖像》 1639 年 油彩・カンヴァス
⑤	ピエール＝オーギュスト・ルノワール《赤い服の女》 1892 年頃 油彩・カンヴァス
⑥	ポール・セザンヌ《オーヴェールの曲がり道》 1873 年頃 油彩・カンヴァス
⑦	アメデオ・モディリアーニ《ポール・アレクサンドル博士》 1909 年 油彩・カンヴァス
⑧	モーリス・ユトリロ《モンマルトル、ノルヴァン通り》1916 年頃 油彩・カンヴァス
⑨	マリー・ローランサン《二人の女》 20 世紀前半 油彩・カンヴァス
⑩	キスリング《花》 1929 年 油彩・カンヴァス
⑪	ノエル＝ニコラ・コワペル《ヴィーナスの誕生》 1732 年頃 油彩・カンヴァス
⑫	ピエール・ベルギーニュ《田園の奏楽》 17 世紀後半-18 世紀初頭 油彩・カンヴァス
⑬	ジョシュア・レノルズ《少女と犬》 1780 年頃 油彩・カンヴァス
⑭	ジュール・ジェーム・ルージュロン《鏡の前の装い》 1877 年 油彩・カンヴァス
⑮	サロモン・ファン・ロイスダール《宿の前での休息》 1645 年 油彩・カンヴァス
⑯	カナレット(ジョヴァンニ・アントニオ・カナル)《ヴェネツィア、サン・マルコ広場》 1732-33 年頃 油彩・カンヴァス
⑰	クロード・ロラン(クロード・ジュレ)《小川のある森の風景》 1630 年 油彩・カンヴァス
⑱	コルネリス・ファン・スペンドンク《花と果物のある静物》 1804 年 油彩・カンヴァス
⑲	ウジェーヌ・ドラクロワ《手綱を持つチェルケス人》 1858 年頃 油彩・カンヴァス
㉔	ジャン＝フランソワ・ミレー《鷺鳥番の少女》 1866-67 年 油彩・カンヴァス
㉕	ルネ・マグリット《再開》 1965 年 油彩・カンヴァス
㉖	アルフレッド・シスレー《レディース・コーヴ、ラングランド湾、ウェールズ》 1897 年 油彩・カンヴァス
㉗	アンリ・マルタン《画家の家の庭》 1902 年 油彩・カンヴァス
㉘	展覧会メインビジュアル ※クレジット表記不要

展覧会紹介文例

【50 文字程度】

東京富士美術館の西洋絵画コレクションから約 80 点を厳選し、「美術の教科書」のようにその歴史を振り返る。

【100 文字程度】

東京富士美術館の西洋絵画コレクションから厳選された約 80 点の絵画によって、ルネサンスから現代まで 400 年を超える西洋絵画の歴史を、その変化と共に「まるで美術の教科書」のように振り返ります。

【200 文字程度】

1982 年に八王子に開館した東京富士美術館の西洋絵画コレクションから厳選された約 80 点の絵画によって、ルネサンスから現代まで 400 年を超える西洋絵画の歴史を振り返ります。きら星のごとき巨匠たちの傑作の数々に目を奪われるだけでなく、理念や思想を伝える手段としての絵画から、色彩と形態の喜びをうたい上げる絵画へと、時代とともに変貌するその本質を「まるで美術の教科書」のように鑑賞することができます。